社說

日本銀行の金利引上げに就て

一昨年來我國の貿易は平均を失し輸入常に輸出に超過して殆んど止まる所なきが如し其間なぜの如く外國に巨額の資本を放下し其利子として內地に正貨の流入すり國柄に於ては連年の輸入超過は必然の成行なれども斯る事情の存在せざる我國に於て二年間に一億一千萬圓の輸入超過を呈したるは兎に角に經濟社會の變態と云はざる可らず此事は政府が償金を流用して爲替作用に依て輸入品の代價を仕拂ひたるを以て輸入超過に拘はらず日本銀行の正貨準備は毫も減少を見ざりしかども永く之に依賴して準備の安全を期し難きは甚だ明白なれば斷然金利を引上げて前途を警戒す可しとは我輩が屬々日本銀行の當局者に注意したる所なるが果せるかな昨年十月以來正貨輸出入の形勢は一變して三箇月間に八百十七萬餘圓の金の輸出超過を呈したるのみならず本年に入りては金貨の取付は日に增加し一時九千八百萬圓內外を上下したる日本銀行の正貨準備も二三週間の內に八千九百萬餘圓に減少し今後いよ〳〵取付の見込あるより同行も終に十月以來据置きの金利を一厘方引上げたり之に就ては株式市場なぜには種々の說もあらんなれども我輩の所見を以てすれば今度の引上げは中央銀行として守る可き常道に出でたるものにして之が爲めに或は株式の低落を招き日本銀行に俠賴して只管資金の融通を求むる小銀行を苦しめ延いて事業家に不便を與ふるとするも兌換制度の安全を維持するより云へば當然の處置と謂ぬざるを得ず元來日本銀行とても金利を上下するに當ては自然の大勢に從ふの外に無なきは明白の事實にして今日經濟社會の大勢如何と云へば過年輸入超過の後を承けて正貨の流出は到底免れ難きのみならず米價不作の爲めに外國米の輸入のみにても非常の巨額に上るは勿論汽船會社を始め製造會社なぜが兼て注文したる船舶機械原料の類にして三四月の頃に代金を仕拂ふ可きものも少なからず而して米國の經濟社會は昨今非常の好景氣にして我國の產物を需要するには何進なければ生絲製茶を始め米國に需用せらるゝものは下半季の頃に至りて始めて盛に輸出せらるゝ次第なれば目下の正貨流出を防ぐに以て左したる効ありとも思はれざる其一方に兌換券の制限外發行高は尙ほ三千萬圓を下らず正貨準備の減少と反比例を以て增加するの傾ありて毎年の例に據れば四五月頃には實金の需要概して少なく一千萬圓內外の兌換券は銀行の手許に回收せらるゝの常なれども昨今の如く經濟社會に變態を呈したる場合に果して斯る例を見るや否やは實際疑問に書しむ所なり前後の事情にして右の如くなりとすれば銀行當局者の輕率を無準備にして金融に多少の小康を呈したるに拘はらず日本銀行が依然警戒の方針を取るは已むを得ざる所にして一部の國民は必然の結果なれども或は今後輸出貿易が益に增進す可しとか外資が大に輸入す可しとか唱み傳ふ事實に依據して兌換券の增發を企圖し結局兌換制度の安全と信用とを犧牲にして經濟上に事變ひらざる警戒を怠るに至ると知らば實に一厘方の引上げを以て足れりとせず兌換制度の安全を維持するに充分なりと認むる丈けの引上げを斷行するみそ中央銀行の本色と云ふ可けれ現に英國銀行の如き昨年下半季の始めより貿易上に金貨流出の徵候を呈するや從來二分の金利を二分五厘より三分に引上ぐると同時に銀行所有の公債株券を賣出して市場の資金を回收するなぜ種々の手段を運らして流出の勢を和げたるに之正貨準備は大に減少せず從て金融上に非常の破綻を免れたりと云ふ明治二十四年の事季に於て日本銀行の正貨準備が貿易不平均の爲めに五千七百萬圓より四千三百萬圓に減じ世人をして兌換制度の安否に驚愕の念を懷かしめたるは今日に至るまで當局者の記憶に存す可き事にして斯る危險を再びせざるは世間一般に希望する所なり殊に英國銀行なぜし異にして外國の金融市場と密接の關係を有せざる我國の今日に於ては金利を引上ぐるも資金の需要を妨遏するのみにして進んで外國より正貨の流入を招きて正貨準備を充實するなぜ巧妙の作用を見る能はず從て金利引上げの効力は寧ろ遲緩にしていよ〳〵正貨の流出にして甚だしければ公債を外國市場に賣却し爲換作用に依て之を防ぐなぜの不便なきを得ざれば當局者たるものは豫め此邊を覺悟して前途に處する所なかる可らず而して金利引上げの爲めに不景氣の襲來を遠にし或は金融上に意外の破綻を見るが如き事あらんか是れは當局者が皆て妄りに膨脹的方針を唱へて貸出を緩うしたる其一方には政府が償金を流用して兌換制度の自然の作用を妨げたる反動にして或は金利引上げが時機を失したる證據なるやも知る可らず我輩は金利引上げの事情を明にして前途の成行を卜するものなり

○選擧競爭彙報（十五）

京都府　第五區にては選擧有權者の最も多數なる南桑田郡の意向決定せざるを以て自由、進歩兩黨とも未だ候補者を定むる能はざりしが追々選擧期も近寄りたるを以て同郡有志者は豫て噂ありし郡長石田眞平氏の決心を確め更らに天田、船井兩郡へ交渉して候補者を定むる筈なりと云ふ○第六區（丹後五郡）に於ける候補者に就ては過日來有志者間に於て專ら交渉中なりしが稻葉前代議士は愈々辭退するみそしなり神鞭知常氏之に代りて候補を請するに至り茲に全く確定したれば同區は終に神鞭氏の獨舞臺となりたり因に記す客臘議會解散の當時神鞭氏は稻葉氏に向ひ其在任中の言動を實踐し總選擧の際は今一應打て出でられたしと所望せしも稻葉氏は固辭し却て神鞭氏に候補たらんみそを勸め稍々默契するもの〳〵如くなりしかば兩氏の間には當初より說等の合はなかりしとなん

埼玉縣　三第區（二人）は前報の如く長瀨（自由）大鳴（新自由）二氏既に運動を始めたるが此邊同區の實業家は其中忠直氏を押し立つる事に決定し他の一人は山中關之助氏を推さんとの說あれども未だ確ならず

群馬縣　第二區は進歩黨の荒川高三郎氏前代議士荒井啓五郎氏と競合戰たる爲め今日の處獨逸臺の觀あり○第三區は前代議士中嶋祐八氏（進歩）既に運動に着手し高津仲次郎氏も形勢を窺ひつゝあれども調査中佛氏の敵には如らざるべし

千葉縣　第二區の自由黨候補者大塚常次郎氏は多數の有志者より推選されたる事とて到る處氣受好く最高點を以て當選すべしとの說あり同區は二人の定員なれば他の一人は多分進歩黨の四宮有信氏其運に當るならん○第四區は酒村喜右衛門氏（新自由）獨占の感ひ居りしに此邊米國文學士小手川豐次郎氏打て出で各所に演說會を開きて運動盛りなる酒村氏の根據地たる銚子地方も七分通りは小手川派の餌分に歸したりと云ふ

宮城縣　第一區は既報の如く前代議士章刈親明（自由）藤澤義之輔（進歩）草川貞實氏（無所屬）三氏の競爭なりしが早川氏を推せる宮城郡の實業團體等にて種々協議の末終に去る八日早川氏の推薦を取消して更らに藤澤氏を助くる事に決定したれば藤澤氏に取りては一勢力を加ふるに至れり

栃木縣　第二區（二人）は前代議士新井章吾氏（公同）が同派の持田若佐氏も讓りて持田氏が前代議士田村順之助氏（新自由）と提携の事に相ば決したりしも其後機運一變して矢張り前回の如く新井田村兩氏が候補者となり相携へて運動する事に決したるよし左れば其競爭者たる橫尾輝吉（進歩）神原義武（同上）の兩氏は益々困難なるべし

○東京市會

東京市會は一昨日午後四時より開會須藤議長より市參事會員芳川顯正氏辭職の旨を報告し直ちに補欠選擧を行ひたるに其結果左の如し

三十三點（市參事會員當選）　肥塚龍

次に議事に移り第四號議案澁澤榮一氏より養育院感化部基本金中へ金三千圓寄付の件に移りたるに簡易法により異議なく可決し次に第九十七號本市衛生部設置に關する調査委員の意見報告を朗讀し調査委員長肥塚龍氏は委員會の經過を報告し傳染病豫防救治の事務は從來警視廳に於て取扱ひ來りたるものにして昨年の勅令第三十六號に據り本市に引繼ぐべきものなれども本案の如き組織を以て市の衛生事務を掌らんとするときは從來警視廳に於て爲したる十分一の働きもなす能はず依て一層完全なる案の提出を望む爲め一旦本案を廢案するみそに決したりと報告し次に委員の一なる長谷川素氏は相當の準備を爲したる後之を引受くべしと述べ杉田武氏は廢案は頗る不穩切の行爲なるを以て委員に再調査を求め完全の案を爲さしむべしと敲し肥塚氏は本案を廢案し別に衛生方針調査委員の設置を建議し其組織方法を調査せんと欲するものなりと答へ曲木如長氏の本案維持說、橫山雲次郎、植田治平、佐久間貞一諸氏の說ありたる後採決せしに多數を以て委員に託して再調査せしむる事に決せり此に於て委員長和田彌太郎氏の辭任を申出で種々の議論あり議長は委員にして再調査を承諾せざる上は本案に就て再び議事を開くべしとて直ちに採決せしに多數に依り本案は否決されたり夫れより二三の議案を議了し次に市區改正臨時費豫出總計壹萬四百六十五圓五十五錢一厘（鍛冶橋驛の川敷埋立の件）に就て第一次會を開きたるに今井榮補氏は此近傍は將來中央停車場設置の場所なるに今之を埋立つるときは後日運輸危機の不便を感する事なきやと質問し其他よりも續々質問あり中嶋技師は別に不便なきの旨を說明したるが今井氏は本案廢案說を唱へ採決したるに委員會正案の如く可決せり次に東京市水道、貯水池、高本財產管理費入出總計壹萬四百六十五圓五十五錢一厘の定員なれば夏調査委員設置の建議に係る肥塚氏等の建議に係る事に決し町田氏等の建議に係る事に決し杉田武、元田肇、せり

○犯罪

「ナニ、七個ですって、たではありませんか、夜劇に、紫村は蕎麥決して、僕の云つた は皆誠實だもの。」 問ふから、七個だと るまい。」

「其では其一ッは、御

「イ、ヤ、失はないと 「其では、もと七個で 仰しやるのは、何ら 「マア待ち給へ、僕は 御らたへも、其處ら 處に來た用向を聞く で、僕にばかり先刺 答辯を拒むに、急 る。」 遂に、「其では 犯罪を行ひなすつた で御座います。そ つて參りました。」 貴殿の罪人にして、 られたらんには、 なり。左ればその の、あはれ笛ふかく 伴の者し紫村の誤 て意外の屋と爲し